

情報発信と広報室の活動



広報室のメンバー。手にしているのは広報誌『弥生』のバックナンバー。

多様化と深遠化が進む現在の大学の研究教育活動では、情報の発信とその内容の適正化の検討を職務とする広報の役割が益々重要になってきています。また、その情報を受け取る側は、研究科内の構成メンバーから、学内の他研究科・他学部の教職員学生院生、海外を含む学外の一般の方々から専門家まで多岐にわたっています。広報室では、この広報誌『弥生』の編集をはじめ、農学部公開セミナー、ホームページの監修、研究科概要の監修、研究成果のプレス発表等を通じて、農学生命科学研究科・農学部の広報関連の活動をサポートしています。

現在の広報室は、左のページの一番下の奥付に記載してありますように、室長を含む7名の教員と事務部総務課の3名を合わせた10名で担当しています。歴代の広報室長、広報室メンバーが築かれたノウハウおよび指針の継続と、広報活動の更なる質的向上を目指しています。また、この広報誌『弥生』の原稿作成や、農学部公開セミナーでの講演、準備や運営等の広報活動においては、研究科内の先生方や事務の方々に大

変お世話になっております。年2回、6月と11月に開催している農学部公開セミナーの最近の参加者数は大幅に増加しており、遠方から来られる方々もおられます。これは本研究科の先生方の研究内容が一般の方々の生活や仕事、興味や関心に直接・間接的に強く関わっているためであり、新しい情報を適正に発信し、学内外の方々に理解を深めていただくことが重要です。本研究科の教員の方々の層は厚く専門分野は多岐に渡って人材豊富であるため、上記の原稿、講演依頼では、テーマや方向性が決まれば人選には実のところあまり苦勞しなくてすみます。

広報室メンバーの集合写真は、農正門に入って右手の農学資料館前で撮影しました。忠犬ハチ公を始め農学生命科学研究科・農学部に関連する資料がありますので、是非お立ち寄りください。

大学院農学生命科学研究科
広報室長

いそがい あきら
磯貝 明 教授

